



【三光幼稚園】
TEL：0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL：090-7430-1312

♡ご入学・ご進級おめでとう♡

多布施川の桜並木が満開です。コロナ対策が緩和されたことで、花見をする人たちを大勢見かけました。何だか、ホッコリする風景に心が和みました。

さて、令和5年度の児童クラブが開始しました。新1年生を迎え、総勢22名のスタートです。

3学年のこども達が助け合いながら、刺激や知恵をもらって、楽しい時間が共有できるよう、西九大の教職員の方々に支援を頂きながら、運営していきたいと思ひます。

保護者の皆様におかれましては、どうぞ、ご協力を宜しくお願い致します。

❀4月のおたのしみ❀

- ハンカチ落としゲーム
- 椅子取りゲーム
- 施設紹介・探検
- 戸外活動（ドッジボール・縄跳び等）

4月の学童児童数

	3月末 在籍数	4月 新規人数	4月 退所人数	4月 初日人数
1年生	11	11	0	11
2年生	1	0	1	10
3年生	0	0	0	1
計	12	11	1	22

○今年度は11人の新1年生がさんこう児童クラブに入所しました。2年生、3年生のお兄さん、お姉さん色々な事を教えてあげて下さいね♡
○今年度は、林・藤戸に加え、桂木の3人が児童クラブを担当させていただきます。1年間よろしくお願ひいたします。

児童の様子

ついに新年度が始まりました！お子様のご入学・ご進級おめでとうございます(*^-^*)保護者の皆様のご協力のおかげでさんこう児童クラブも2年目を迎えることができました。

2年生・3年生の子どもたちは1年生が児童クラブに来るのをとても楽しみにしていました♪そこで、1年生が児童クラブを楽しい気持ちで通ってもらえるようにみんなで話し合いをしました。すると、「壁面をかわいくしたら楽しい気持ちになるんじゃない？」「そうだね！いつもみたいにみんなで作ったのを飾ろう！」と大張り切りで製作に取り組み始める子どもたち。「春だからちょうちょだよね～」「お花もいいよ！」と色々なアイデアを出しながら花紙や折り紙を使って1年生を迎えるために蝶や花を作りました(*^-^*)今まで色々な製作をしてきましたが、誰かの為に作ったのは今回の活動が初めてで、「喜んでくれるかな～？」と新しい友達のことを思いながら嬉しそうな表情で作ってくれました♪1年生のために子どもたちが一生懸命作った作品はお部屋に飾っています。お迎えに来られた時にぜひ覗いてみてください♪



◇ 4月の目標 ◇

「友達と色々な活動を通して仲を深める」

4月は学年が上がり、仲が良かった友達とクラスが離れたたり同じクラスになったり、1年生も児童クラブの仲間として一緒に過ごしていくことになったり、出会いがたくさんあります。色々な活動を通して友達同士の仲が深められるように関わっていきたくと思ひます(*^-^*)

子どもと一緒に「今」を楽しむ

西九州大学 短期大学部
幼児保育学科 講師 金丸智美

新年度を迎え、入園、入学や進級など、新たな環境での生活がスタートしました。毎日が慌ただしく過ぎていく子育て中においても、特に4月はまだまだ生活リズムがつかめず、余裕のない日々になりがちです。

私も3人の子どもの子育て真っ只中ですが、「これをしなきゃ」「あれもしていなかった…」と気持ちばかりが焦り、ついつい「ながら」子育てになってしまっています。食器を洗いながら子どもを注意する、仕事をしながら子どもの宿題をみる、考え事をしながら子どもを寝かしつけるなど、自身の生活を振り返ると「ながら」ばかりです。しかし、冷静に振り返ると「ながら」子育てをしていますが、時間を有効に活用できているという実感が持てません。例えば、食器を洗いながら子どもに「おもちゃを片付けて」と言っても、絶対に1回では片付けてくれません。何度声を掛けても動く気配すらなく、結局、食器洗いの手を止めて一緒に片づけることもしばしばです。考え事をしながら寝かしつけている時、子どもは全然寝てくれませんが、子どもの話を聞きながら寝かしつけることに集中していると、意外と早く寝てくれます。もしかしたら、「ながら」の子育てでは声も気持ちも十分に伝わらず、互いにおぎなりの状態なのかもしれません。

さて、私は普段、保育者を目指す学生に授業を行っていますが、特に重要なテキストの一つに保育所保育の基本となる考え方が書かれた「保育所保育指針」というものがあります。保育所保育指針には、乳幼児に対する保育者の関り方のポイントが書かれているのですが、「受容的・応答的」という言葉は特に何度も繰り返し出てくる最重要ワードです。端的に言えば、「子どもの欲求、思いや願いを敏感に察知し、その時々状況や経緯を捉えながら、時にはあるがままを温かく受け止め、共感し、また時には励ます」ことが重要だということです。これは保育者に限ったことではなく、家庭での子育てにおいても大切なことだと言えます。しかし、子どもの些細な変化を敏感に察知し対応することは、とても「ながら」ではできません。どんなに忙しくても、子どもに100%の気持ちで向き合うことが必要なのだと改めて気づかされます。

もちろん、家で過ごす時間全てを子どもに100%の気持ちで向き合うなんて、現実的ではありませんし、頑張りすぎても疲れてしまいます。ですので、ほんの少しの時間、例えば毎日10分や15分だけでも良いのです。焦る気持ちはひとまず横に置き、仕事や家事のことを忘れ、ひたすら子どもと「今」を楽しむ、「今」を大切にする。これこそが、子育て中の今しかできない有意義な時間の使い方なのかもしれません。